



基幹教育セミナー 「発表の技法」

林 篤裕

(九州大学 基幹教育院
& アドミッションセンター)

e-mail: hayashi@artsci.kyushu-u.ac.jp



1

本番発表の目的

- ◆発表内容:
 - ◆「自分が大学で学ぼう(or 取り組もう)と考えていること」
 - ◆自分が進もうとしている専門分野の中身の話だけではなく、「それと自分との関係」を、自分の言葉で語ろう。
- ◆目的: 大学生活を有意義なものにしてみたい
 - ◆一連の作業を通じて、自分自身を振り返ってみる機会にしよう。
 - ◆「過去・現在・未来の自分」を考えることに依って
- ◆そのための作業: 以下の2つを必須とする
 1. 発表: **実際に発表してみて経験を積む**
 2. 要旨: **文書にまとめる**

2

なぜ「自分」を題材としているのか?

- ◆発表内容
 - ◆「自分が大学で学ぼう(or 取り組もう)と考えていること」
 - ◆自分を語ることを題材としている
- ◆なぜ? もう飽きた! それでもなお: 素材=自分
 - ◆発表に必要なもの: 「内容」
 - ◆新たに調べ直さなくて良い
 - ◆自分を問い直すことで素材は用意できる = 振り返り
- ◆もし「新しい事項」を発表しようとする....
 - ◆丹念な調査や事象の理解から着手する必要
 - ◆調査・理解が不十分なのか、発表方法が不十分なのかの切り分けができない。 3

事前学習課題

- ◆人に物事を説明しようとするとき、どのような点に注意すれば良いのであろうか。説明したい事柄を熟知しておくことは当然だが、それ以外にどのような点を考慮すべきなのか。大学生活に限らず、広く社会では人と意見交換をする。自分の意見や伝えたい情報を理解してもらおうと言葉を発するが、自分の意図通り誤解なく相手に伝わっているものであろうか。
- ◆来週は「発表(プレゼンテーション)」に絞っていくつかの考慮点を皆さんと考えてみようと思うので、それへの準備として発表に必要と思われる事項を事前に列挙してきてもらおうと思います。1の「個人ワーク」を来週までに埋めてきてください。
- ◆◎発表に必要な事項について、以下の2つの観点から 思いつく限り挙げてください。
 - ◆小問 1a) あなたの思う「良い発表」に備わっているべき要件は何か?
 - ◆小問 1b) そのためにはどのような準備が必要であるか?
 - ◆[例] ①読みやすいサイズの文字 / 大きく太いフォントを使う
 - ②堂々と話す / 度胸を付ける
 - ③

4

グループワーク

- ◎小グループになって: 11班、6人
- ◆自分の準備してきた「良い発表」に備わっているべき要件を紹介しあおう。
 - ◆自分の気付かなかった要件はメモしよう。
 - ◆他人の意見も含めて、「良い発表」とはどのような要件を備えているべきなのか?
 - ◆それらの要件には優先順位があるか? あるとすればその第1位は何?

5

「既に第1ステージには居る」

- ◆発表がうまくなりたい!! そのための身近な教材
 - ◆毎日の「講義」は絶好の教材である
 - ◆日頃の授業・講義を受講しての感想から得られるもの
 - ◆自分自身ならどう講義を進める?
 - ◆良い講義、満足な講義: 何があれば?
- ◆以下のものに興味がありますか?: 「なぞかけ」
 - ◆ドラマ、小説、お伽話、映画
 - ◆落語、講談、浪曲(浪花節)、演歌、フォークソング
 - ◆理由は後ほど

6

考慮点

◆私の場合「学会発表時に注意する事項」

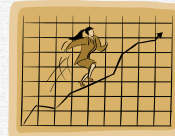
- ◆ www.artsci.kyushu-u.ac.jp/~hayashi/comp_tips/presentation.html
- ◆ 人の話を聞くととき(準備段階として)
- ◆ 発表の構成
- ◆ 発表資料(提示資料)の作成
- ◆ 配付資料の作成
- ◆ 登壇時
- ◆ 講演をお引き受けする際
- ◆ [番外編] コーディネーターの心得
- ◆ [番外の番外編] 訪問調査をする際の心得

7

どう語るか①:ストーリーの基本的な枠組

❖ 「過去・現在・未来」の形式

- 「過去」にあった色々な出来事が「現在」につながっていて、「未来」もその延長線上にある。
- それが一つの筋(ストーリー)となって提示されると、他者に理解や納得を与える。

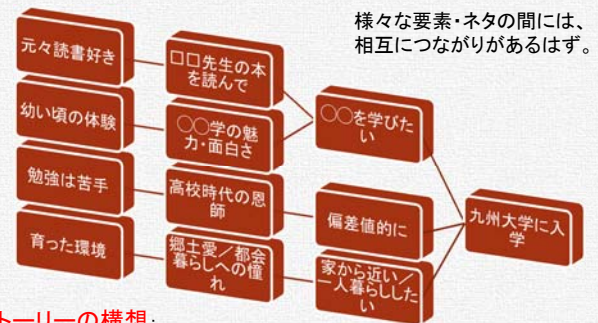


- ❖ 普段は意識せずとも、誰でも何らかの「自分のストーリー」をすでに(ぼんやりとであれ)持っているはず。

どう語るか②:ストーリーの要素を挙げる

- ❖ ストーリーは様々な要素(ネタ)から構成されている。
 - **過去:** 時代背景、自分の育った地域や自然環境、身近な人達からの影響、メディアからの影響、学校の雰囲気、印象深い出来事、当時好きだったモノ・コト、当時抱いていた将来の夢 等々
 - **現在:** 現在の時代状況、自分がいる環境、大学内・外で取り組んでいる活動、入学後の様々な出会い、授業等で実際に学んでいること、現在抱いている将来像 等々
- ❖ 「現在の自分」を形作っていると思えるような、こうした様々な要素・ネタを思いっぴくまに挙げてみよう。
 - それらが「現在の自分」にどうつながっているのか・なぜ大事なのか(自分にとっての意味・理由)も一緒に考える。

どう語るか③:ストーリーの要素をつなぐ

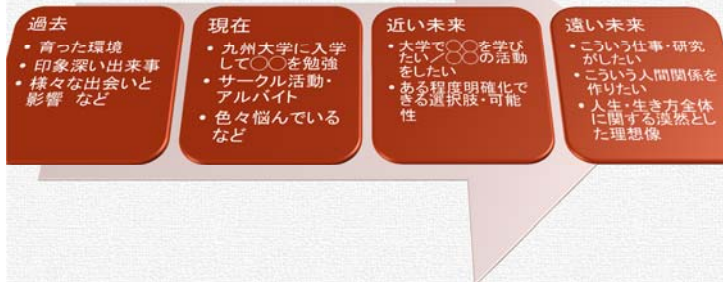


様々な要素・ネタの間には、相互につながりがあるはず。

ストーリーの構想:
列挙した要素・ネタを並べてみて、その中に一つの筋・つながりを見つける作業。

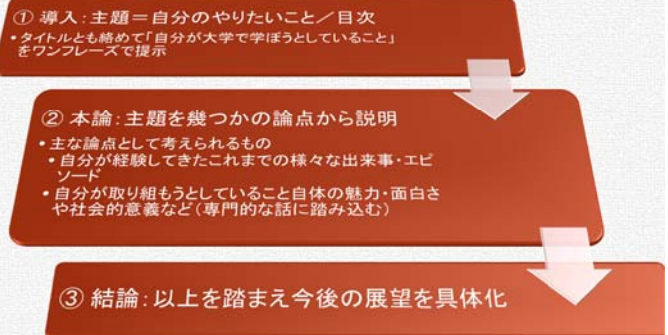
どう語るか④:ストーリーの構想を考える

- ◆ 各要素間のつながりを「過去・現在・未来」の時間軸の中で捉え直してみよう。
- ◆ 「起承転結」、「序破急」。



どう語るか⑤:ストーリーの構成を練る

どの要素をどういう順番で採りあげて説明すれば、自分の主題がより理解・納得してもらえるか、をよく考える。



本番発表の進行について

- ◆ **本番発表:** (クラスに依って多少の設定変更もありえるが)
 - ◆ 1週に4名、最終週は2名
 - ◆ 18分: 準備(1)、発表(12)、質疑応答(4)、交代(1)
 - ◆ 提示資料は各自で準備する
 - 道具立ては自由: PowerPoint、Prezi、模造紙、板書、.....
 - 教材提示装置も利用可
- ◆ **聴く側の学生に求められること** 本番当日配付
 - ◆ 発表後、積極的に質問を出す(傾聴が必要!)
 - ◆ 各発表者に対して「フィードバックシート(●様式3)」を記入し、発表者に渡す(自分も皆から受け取る)。
 - ◆ 他の人の発表も参考にして、自分の発表を磨く。

13

いくつかの注意点

- ◆ 別途配布した「本番発表に望む前に(●様式4)」も参考に。
- ◆ 慣れていない人は、
口頭発表の元になる原稿を作ることをお奨めする。
 - ◆ ただし、発表で手元の原稿ばかり見て、聴衆を見られないという事態は好ましくない。そのためには事前の練習が非常に大切!!
- ◆ 「出典」を明示する必要性: 著作権
 - ◆ 誰かの文章や画像・グラフなどを引用する場合、その出典を明示する(インターネットのサイトの場合は、URL情報も載せる)。
- ◆ 練習の重要性
 - ◆ スライドと原稿ができただけでは準備はまだ終わりでない。
 - ◆ 鏡の前に立って、時間を測りながら(できれば録音もして)繰り返し練習しよう(特に時間管理は難しいので注意)。

14

道具立て

- ◆ **プレゼンテーションツール**
 - ◆ かつては黒板、模造紙、OHP(Over Head Projector)シート
 - ◆ PowerPoint, Keynote, PDF, Prezi,
 - ◆ 道具立ては各自自由に選択
- ◆ [参考1] 情報システムの利用と自習教材について (<http://ecs.kyushu-u.ac.jp/self/>)
- ◆ [参考2] Web学習システム(<https://bb9.iii.kyushu-u.ac.jp/>)に「Officeの使い方」あり。
 - ◆ 「コース一覧」-「よくわかる Office2013」-「よくわかる PowerPoint2013基礎」
- ◆ [参考3] 「アクティブ・ラーナーへの第一歩」も参考になる。
 - ◆ BookLooper内

15

発表要旨: 本番発表後の課題

- ❖ 本番発表後に「発表要旨」を提出してもらう [●様式5-1]
 - 形式・分量: A4用紙1枚、800~1200字程度
 - テンプレート(雛形)を以下からダウンロードして利用 [●様式5-3]
 - <http://www.artsci.kyushu-u.ac.jp/~kseminar/>
 - 「本番発表の内容を文章化した原稿(発表要旨)」として書くこと。
 - 締切: 発表の翌週 (or 先生の指示に従って下さい)
 - 提出方法: 印刷して提出 (or 先生の指示に従って下さい)
- ❖ 提出された要旨は教員が添削。
 - 場合によっては書き直し・再提出を求めることも。
 - 最後に全員の要旨をクラスで共有する予定。
- ❖ 作成時のチェック事項: [●様式5-2]

要旨執筆にあたっての注意点

- ❖ 要旨と口頭発表の違い: **言葉だけで**伝える必要性
 - 口頭発表なら、その場で補足説明もできるし、身ぶり・手振り・声の調子等々で、何かが伝わることもある。
 - それに対し、**要旨は「熱意」だけでは伝わらない。**
 - **誰が読んでも分かる**ように書かねばならない。
 - ❖ 文章全体の論理的なつながりを冷静に考えよう。
 - **段落を適切に分け**、構造化し、話の展開を追いやすくする。(「段落分けなし」、「単なる箇条書き」などはダメ)
 - 紛らわしい表現になっていないか?
 - 専門用語を補足説明なしで使っていないか? 等々
- オススメ: 野矢茂樹『新版 論理トレーニング』産業図書、2006年。
1日置いて再読すると新たな発見があるかも。

まとめ(1)

- ◆ **重要点・考慮点**
 - ◆ 訴えたいこと
 - ◆ ストーリー
 - ◆ 人の話を聞くととき(準備段階として): 日頃
 - ◆ 本人の意図通りの伝達ができていますか?
- ◆ 以下のものに興味がありますか?: 「なぞかけ」
 - ◆ ドラマ、小説、お伽話、映画
 - ◆ 落語、講談、浪曲(浪花節)、演歌、フォークソング
- ◆ これらに共通する事項
 - ◆ ストーリー、ワクワク感、その先が知りたくなる
 - 例えば落語: ストーリー、一人、小道具は扇子と手ぬぐいだけ

まとめ(2)

- ◆ 上達するには場数を踏むのが近道
 - ◆ 失敗を繰り返す。失敗を恐れない。
 - ◆ 「発表はショーである」：なりきる
- ◆ 「観察力」、自学
- ◆ “良い”発表に接する：個人に依って観点は異なる
- ◆ 参考文献
 - ◆ ガー・レイノルズ著、シンプルプレゼン、日経BP社
 - ◆ 諏訪 邦夫著、発表の技法—計画の立て方からパソコン利用法まで、ブルーバックス、講談社
 - ◆ TEDの数々の発表 <http://www.ted.com/>
 - ハンス・ロスリング：地球規模の人口増加について
 - <http://digitalcast.jp/v/12245/>

19

99. いよいよ出番です

- ◆ 資料を準備ください
 - ◆ 本番発表：発表前
 - ◆ 発表要旨：発表後
- ◆ 自分にとって“良い”発表に向けて
 - ◆ 何を伝える？ 何が伝わる？ 伝えきれなかったものは？
 - ◆ 個人に依って観点は異なるはず
 - ◆ 初回の発表との差：発展、進歩があればイイな

20